

北東京・生活クラブ まち板橋 (2016年1月~3月)

Nobody's Perfect 講座 ~完璧な親はいない~

ノーバディズパーフェクト講座は、カナダの子育て支援プログラムです。講師に一方向的に教えられるのではない、参加者同士の「学び合い」の場を作り上げるプログラムで、ファシリテーターが様々な手法で進行していきます。また、ここでの話は外に持っていかないという約束のもと、安心して心のうちを話せます。

北東京・生活クラブのまち板橋では、概ね6ヶ月~5才の子育てを育っている母親を対象に、1月から3月にかけて全6回の講座を企画実施しています。生活クラブ東京の地域福祉政策委員会予算による開催で、エコロたすけあい制度を使った託児もあります。

テーマも話し合いのルールも参加者同士が希望を出し合って決めています。取材させていただいた第3回目の講座のテーマは「子どもとの暮らしの中の工夫」。「どんな子どもに育ててほしいか」を出し合い、「どうしてそう思うのか」、「そのために心がけていること」、というふうに段階的に話し合いを進める中、設問に対する疑問点などが出されても、それをファシリテーターが整理してしまうのではなく、参加者自身が意見を出し合い整理していきます。

日々の子育ての中で、完璧を求めて息苦しさを感じていた、ママ友だけの付き合いだけでなく違うコミュニティに参加したい、情報やコミュニケーションがほしい、自分以外の人の意見を聞いてみたい...そんな思いが参加のきっかけとなっています。「みんな自分と同じような悩みを抱えていたりすることがわかって気が楽になった」「受け入れてもらえる場所と感じた」「自分の話に共感してもらえ、経験やアイデアを受け入れてもらって認められたような気持ち」等の感想が聞かれました。「正しい知識」を一方向的に与えられるのではなく、当事者が話し合っているような答えを見つけていくプロセスの中で、自分とは違う考え方をすることで視野を広げ、仲間づくりにもつながることがこの講座の良さだと感じました。



行為で、市の助け合い推進大会で表彰されました。福祉は当事者から生じるのです。

●「自己責任」から「おたがいさま」へ!

とはいえ、自分の弱みをさらけ出すのに抵抗がある人がほとんどではないでしょうか。自己責任、自助努力でがんばれ、という社会ではなおさらです。特に問題なのは男性です。2000年~09年までにおきた高齢者の介護をめぐる家族や親族による心中や殺人400件。その加害者の4分の3が男性で、夫や息子が一人で介護を背負い、他に助けを求めず行き詰まってしまうことが多いようです。

●仲間ですけあい・・・やがておすそ分け

生活クラブ生協では、地域の中の顔の見える関係づくり、「コミュニティ」の形成を通して、世代を超えた「たすけあい」の関係づくりをすすめています。「助けて」と言えるまちづくりを、まずは身近な小さな単位から始めてみませんか?

(この頁)インクルーシブ事業連合事務局 平岡晴子

西東京地域協議会学習会報告 (2016年1月26日)

「生きにくさを抱えている人たちと共に働く・暮らす~就労支援の現場から」

講師：NPO法人ワーカーズコレクティブ協会専務理事・岡田百合子さん



神奈川にはワーカーズが160団体。福祉クラブ生協を合わせれば260団体あり、全国一。事業はデポーから、家事介護、デイサービス、生活支援、移動、保育、健康支援、食文化、生活文化、まちづくりにまで広がっています。

●障がい者・若者・生活困窮者との出会い

就労現場を多く持つ協会のネットワークを活かし、2005年、横浜市職場体験実習コーディネイト事業を受託。以降、行政との連携により、知的障害者の職場体験、無業・失業中の若者へのジョブトレーニング、ひきこもりだった若者の社会体験、就業定着支援、生活保護家庭の子ども達の社会参加支援などを実施。実績が評価され、次々と事業に参画していきました。これまでに462人がワーカーズやNPOで実習を受け、一般就労の他、そのまま就労した人も51人に。3つほめて2つ注意する、がモットー。やれる、やれないではなく、行かなくてはいけない場所があることが、まずは大きな一歩です。

●これまでの課題を踏まえて新たな一歩

若者の場合、働く場に複数で入り、友達をつくること、働き場に居場所機能があることも重要です。そこで、若者主体の「はっぴいさん」が2013年発足。シニアと協力して、高齢者の生活支援を行い、昨年からは配送ワーカーズとのコラボで「生前整理・引っ越し・引き払い」へと仕事が広がりました。現在、16

人の若者が活躍中。資格・経験不問、短時間ワークからのスタート、たすけあい支えあう場、といったワーカーズの特長が「共に働く・暮らす」に効果を生んでいます。多様な人が集まるワーカーズそのものが社会です。若者を含む稼働世帯の生活保護受給が著しく増加する中、社会保険も含め、ワーカーズですっと働けるしくみをつくることも必要です。

●横浜市就労準備支援事業

現在、協会では、横浜市生活困窮者就労準備支援事業を市内18区で受託。求職しつつもさまざまな課題を抱える15歳から64歳の方々に、就労意欲の喚起や一般就労に向けた基礎能力が身に付くように支援します。横浜市では実習1回につき、利用者に奨励金、協力事業者に謝金として各千円が支給されます。



●就労支援に必要なこと

生きにくさを抱える人へのちょっとした見守りやサポート、実習後の出口の拡充、生活全体の支援のためには、ニーズに対応する支援団体を広げていくことが必要です。コーディネイト機能を果たすサポート組織をつくり、支援者の組織化とネットワーク化により、社会的企業・事業所づくりの支援をしていく、そして地域の理解と共感を広げることが大事です。協会では、今年もコーディネイト研修を実施することとしています。

インクルーシブ事業連合事務局 稲宮須美

23区南生活クラブ生協 (2016年1月9日)

2015年度くらしの見直し講演会「助けられ上手さんになるために」

講師：住民流福祉総合研究所 所長 木原孝久さん

木原さんが講演会で「困った時に『助けて!』と言える人は?」と聞くと、90%以上の方が「言えない」と答えるそうです。では、助けることについてはどうでしょうか。長野県須坂市が、住民に「あなたは足元に困った人がいたらどうするか?」と聞いてみたところ「頼まれなくても助ける」23%、「頼まれたら助ける」72%と、90%以上が「助ける」と答えたそうです。「助けて」と言われれば動く人が多いが、「助けて」と言えない人も多い。これではなかなか相互の「たすけあい」が始まりません。

●助けられ上手から始まる「当事者主権」の福祉

担い手主導の福祉から、当事者発の福祉に変えていくことができるのは、自分の困りごと(ニーズ)を発信する「助けられ上手さん」です。誰が何を助けるか、当事者がコーディネートする事例が幾つか紹介されました。たとえば車いす生活のUさんは毎日、買い物に出かけるたびに、周りの人に車いすを押すなどのお手伝いをお願いしています。Uさんはこの

社会福祉法人 悠遊

インクルーシブ事業連合構成団体の活動を紹介します

認知症カフェ『Cafe ゆうゆう』@生活クラブ・ケアセンター世田谷

生活クラブ東京の旧本部跡地を活用し、2012年に開設したケアセンター世田谷は、居宅介護や訪問介護支援事業に加え、小規模多機能ホーム「みんなんち」やグループホーム「ちとせ」を運営しています。昨年9月には、初期費用として世田谷区から10万円の補助も受け、「カフェゆうゆう」をオープンしました。お茶を飲んでくつろいでいるときは、日常とはまた違った話(相談)ができ、ご本人だけでなく、ご家族も楽しみにきてくれています。ケアマネジャーに介護の相談もできます。事前予約は不要です。

開催は毎月第三火曜日の午後2時から4時。どうぞご参加ください。

◆3月・4月の開催日 3月15日(火) 4月19日(火)

参加費：200円(コーヒー・お菓子付) *4月はマンドリン演奏もあります。

所在地：世田谷区千歳台4-2-1

問合せ：03-5490-7080(社会福祉法人悠遊)グループホーム「ちとせ」

